

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入口正面、ケアステの入口とデスクに掲示し、日々目を通し周知徹底を図っている。また異動や新規職員には理念を説明している。会議には理念の振り返りも行っている。	運営理念や本年度事業目標を入り口正面に掲示し来訪者にもわかるようになっている。合わせて月1回の会議の際には唱和し共有に努めている。また、新入職員、転入職員に対しては事業計画について細かく説明し徹底を図っている。合わせて年間事業目標については運営推進会議、家族会の席上発表し取り組み姿勢を明確にしている。職員の定着率も良く、理念を理解し支援に取り組んでいる。仮に理念や目標にそぐわないようなことがあった場合には管理者が事業計画を見せ振り返りの機会を持つようになっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	豊野東小の運動会や音楽会に招待されたり、各種行事には地域住民の方を招待したり、職員やホーム利用者も地域のお祭りに参加している。またボランティアも定期的にお願ひし、月1のペースで地域の人々の自由参加でお楽しみクラブと埒し、カラオケや手芸クラブを実施している。	区費を納め地域の一人として活動している。18軒の隣組には組長より「泉平ファミリー新聞」を配布して頂きホームの活動を紹介している。地域のお祭りには利用者が参加するとともに祭り後の後片付けに職員が参加している。小学生との交流会も定期的に行われ、ホーム内には子供達から送られた千羽鶴等、多くのプレゼントが飾られている。また、職員が小学校や中学校に出向きサポーター養成講座も開催している。専門学校生の職場実習の受け入れも毎年行われ、中には法人に就職した学生もいる。年数回地域の衣料品店の移動販売もホームで行われ利用者の楽しみの一つとなっている。合わせて各種ボランティアの来訪も定期的により利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月グループホーム新聞を泉平地域全戸に配布している。小中学校へのサポーター講座も続けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、会議を開き家族代表、民生委員、組長さん、衣類品店主など地域の方などに参加して頂き、様々な意見や助言を頂きサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、家族代表、組長、地域衣料品店主、民生委員、あんしん(介護)相談員、地域包括支援センター職員、市高齢者活躍支援課職員、ホーム関係者の出席で開催している。事業計画の報告・検討、年間予定、カラオケクラブ、手芸クラブ、バイキング、家族会等について意見交換等を行いサービスの向上に繋げている。また、年度変わりには「運営推進会議に期待される役割と機能」という冊子を配り、地域の皆様の意見も聞き、風通しの良いホームを目指し活動を続けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進委員になって頂き会議に参加して頂いている。介護認定困難事例等の相談にも乗って頂いている。安心相談員も月1回来所して頂いている。	地域包括支援センターには地域との交流等、様々な事柄について相談している。月1回、豊野地区グループホーム管理者会議に出席し情報交換を行っている。市のあんしん(介護)相談員の来訪が月1回あり利用者で交流し気付いた事柄については口頭で報告があり支援に役立っている。介護認定更新調査は調査員が来訪しホームにて行い、立ち会われる家族も数家族いるが職員から現況報告をしている。	

グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者とマンツーマン対応を心がけている。また、職員は事故のない様目配りの強化に努めている。	年1回法人主催の身体拘束研修会に全職員参加し意識を高めている。また、ホーム内の会議で話し合い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関は日中開錠されており、出入り自由で、所在確認をきめ細かく行なうよう心掛けています。帰宅願望の強い利用者がいるが、一人での時間を少なくし、畑仕事や散歩、家族の来訪等で気を穏やかにしている。転倒防止のため家族と相談し夜間のみセンサーコール使用の利用者が三分の一ほどいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で研修を受けている。再度会議等で周知徹底をしている。また、日常的に職員同士注意し振り返りを行っている。現在の取り組みは、推進会議にも話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族の状況に応じた制度について説明をしている。また後継人制度についての研修にも参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者の事前面接に出向き、出来る限りの情報をお聞きし、説明もさせて頂いている。また見学や体験の機会を設け納得された上で契約をしている。料金改定についてもその都度説明し、経済的不安についても相談に応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見を傾聴したり、日頃面会時等家族にお話を聞かせて頂いている。家族会を開催し、意見交換が出来る機会を設けている。	全利用者が意思疎通の出来る状態で、希望をお聞きし支援に取り組んでいる。家族の来訪は2日に1回、1～2週間に1回位という状況で、来訪の際には野菜の差し入れ等をお持ちになり、利用者や職員と親しく話をされている。5月と11月の年2回家族会を行い、観光、遠足、食事会等で交流の時を過ごし、11月には館内の掃除会を行い家族にもお手伝いを頂いている。また、新年会、夏祭り、敬老会にも多くの家族の来訪があり、食事会を兼ね、職員の出し物などを楽しんでいる。更に、毎月発行される「泉平ファミリー新聞」でホームの様子をお知らせし、利用者一人ひとりの状況については、別途、担当職員や管理者より手紙にてお知らせしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	りんどう、しらかば合同会議を実施してお互いの情報交換や困難事例等話し合いをしている。主任は気軽に意見や提案が言えるような雰囲気作りが心がけている。	月1回二つのユニットの合同会議を開催している。法人管理者会議の報告、カンファレンス、行事関係、各種勉強会、意見交換等を行い支援に役立てている。全員参加が基本であるが夜勤者等の欠席者には議事録を回覧し徹底を図っている。5月と10月の年2回、所長と管理者による個人面談が行われ、悩みごとを中心に話す時間を多く取るようにしている。新人、中堅社員の対象者がキャリアアップ研修に参加し、個々のスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に沿った勤務体制で、資格経験等を考慮し、家庭の状況に於いても配慮に努めている。また誕生日休暇や職員同士が集う食事会に所長も参加し、交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた研修や、施設内での勉強会に参加している。また、研修報告は定例の会議において伝達研修をしている。折に触れ管理者は職員と面談をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の3グループホームで毎月管理者会議を行い、情報交換や交換研修も行きサービスの上に向けて取り組みをしている。中学校のサポーター講座3グループ一緒にやっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時には本人、家族からの情報と前担当のケアマネさんにも情報を得て相手を理解し、本人の訴えを傾聴し更に理解することを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の悩みや希望を理解し、家族と本人が安心できる支援りに努めている。また家族が気軽に相談しやすい雰囲気づくりに心掛けている。家族と話し合う機会を意識的に取っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に家族と本人に面接を行い、しっかりと把握した上で対応に努めている。また変化が見られたときには必ず家族に報告し、本人と共に方向性を出せるように支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを常に忘れずに、その人のレベルに応じた活動と一緒にできるようにしている。(畑作り、縫物、食事の下ごしらえ等) 1人1人が活躍できる様な活動を考え参加してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来所の際には状況を報告し、安心した生活が送れるよう、家族と共に見守りながら支援している。面会は来れない家族にもお便りの中で本人の情報を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンだけでなく、きょうだい、孫、親戚、知人友人等が気軽に来所出来る雰囲気作りを心掛け、面会時には居室で一緒にお茶を飲みながら自由に過ごして頂いている。隣接の施設入所の利用者とも交流している。	近所の方、元同僚等の来訪があり居室にて寛いで頂いている。また、併設のデイサービスやショートステイの利用者の中に知り合いがあり、行き来されている利用者もいる。家族と馴染みの美容院に出掛ける利用者や家族と口腔ケアに出掛ける方もいる。利用者同士仲が良くお互いのことを思いやったり、居室を行き来し楽しめたりもしている。合わせて利用者が作った「ティッシュボックス」等の作品を家族にプレゼントし喜ばれている。	

グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員も一緒にお茶を飲んだりすることにより 楽しく会話が出来るようにしている。また散 歩や入浴も気の合う人同士の関係も大切に している。トラブルがあった時には、双方の 話をゆっくり聞くよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後のご家族から電話や訪問がありその 後の相談に応じている。 隣接の施設に入所された元利用者に面会 に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	本人の表情の変化を気付き、時間の許す限 り会話をしている。また本人の思いを出来る 限り実現できるように、本人や家族に話を聞 かせて頂いている。	出来ることはやっていただくという自立支援の中で、誕 生日の食事、入浴後の着替え、外出時の履物、持ち物 等、すべてのものを職員が提案し決めて頂くなど、思い に沿った支援に取り組んでいる。1対1で話しをする時間 を出来るだけ設け、家族に対する希望等をお聞きし、 「お便り」でお知らせしている。合わせて職員に対する要 望もお聞きし支援に役立てている。日々の気づいた言 動等は申し送りノートに纏めており、出勤時に確認し、 日々の業務に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	家族等に今までの生活歴を支障のない範 囲で聞かせて頂いている。また本人にも覚 えている範囲で聞かせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	毎朝決まった時間にバイタルチェックを行っ ている。1人1人の状態は「いつもと違う」気 づきも大切にしている。出来ることややりた いこと、得意なこと等本人のペースでやって もらっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	定例会議で必要性がある場合には、職員全 員と話し合い本人に沿ったプランを作成して いる。家族来所時や家族会の時にも家族と しての意向をお聞きしている。	職員2名で3名の利用者を担当し、備品の整理・確認、 不足物の補充、必要なものをお聞きするようしてい る。職員と管理者は日々の状況を確認し、カンファレン スでモニタリングを行い、家族の希望も来訪時に確認 し、計画作成担当がプラン作成を行い、6ヶ月～1年での 見直しを掛け、状況に変化が見られた時には随時の見 直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌の記録、個別ケースには更に詳し く記録している。申し送りノートを活用し日々 目を通し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズ に対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟 な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の事情や家族関係を考慮し1人1人に 合った支援を心掛けている。また特養申し 込み等家族の相談にも応じている。		

グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域や学校のボランティアを定期的に受け入れ、豊野東小4年生との交流会は開所当時から行っている。また地域の方も行事に参加して頂いている。こちらからも町の行事に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週で2～3回の往診にて、健康状態を診て頂いている。変化があった場合には医師に連絡をし受診している。家族にも連絡、相談をし希望する病院に通院も行っている。	利用契約時に希望をお聞きしているが、現在、全利用者がホーム協力医の月2回～3回の往診で対応している。合わせて契約の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理を行い協力医との連携も取り、24時間対応の医療体制が整えられている。歯科、その他の専門医の受診については基本的に家族にお願いをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接している施設の看護師に相談したり、かかりつけ医の看護師に状況を伝え相談を持ち掛けている。訪問看護サービスも実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は取れている。入院時には職員ができるだけお見舞いに行き、家族と情報交換しながら回復状態と速やかな退院支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに向け、本人や家族の意見を尊重しながら、安心して最後を迎えることが出来るよう、医療機関とも連携を持ちながら対応している。家族会、推進委員会にもターミナル、看取りについての説明や方針をお伝えしている。職員の意識向上の勉強会も計画している。	重度化、終末期については利用契約時に説明しご理解を頂いている。現状は状況の変化に合わせ介護度が3になり入浴等が困難な状況に到った時を一つの判断基準とし、併設特別養護老人ホームも含めた他施設への住み替え支援を行うことを基本としている。家族の希望により、医療行為を必要としない状況でホームにて最期までとお願いされた場合には、医師、看護師と連携を取り支援に当たっている。訪問看護師を講師に看取りに対する勉強会を行う予定もある。また、終末期に向けた指針の整備も実施中で、開設以来7名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って、緊急時にも速やかに対応できるよう備えている。異動職員や新規職員が入った場合には、緊急連絡網の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の施設と地域住民と防災協定を結んでおり、合同で防災訓練を行っている。災害時に備えて、非常食、飲料水、防寒物品を用意している。避難用ネーム、同色のタオルを使い利用者の状況が分かるようにしている。	年2回、6月と10月に併設特別養護老人ホームと合同で防災訓練を実施している。消防署員も参加し、消火訓練、通報訓練、避難訓練を行い、利用者は「名前、歩行状態、連絡先」を示した名札とユニット毎に色分けされたタオルを首から掛け参加し、ユニット毎の玄関にはヘルメットも用意されている。また、地域との防災協定も結ばれており9月末には地域の皆様の参加を頂き、法人全体の防災訓練も行っている。合わせて、新入職員、転入職員がある時には夜間想定を中心としたミニ訓練を行い、防災意識を高めている。備蓄は水、食料品等が6日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを尊重し、さりげない声掛け、言葉掛けを心掛けている。またプライバシーの確保に注意し面会は居室で行ったり、日々の情報は毎日その都度記録している。	利用者個々に合わせ丁寧な言葉遣いをするとともに、方言も交えながら親しく接するよう心掛けている。また、トイレ介助の際の言葉遣いには特に気配りしている。利用者間の話の中で気分を損ねるようなことがないように気配りをしている。法人の尊厳やプライバシーなどの勉強会では事例を上げ話し、理解を深めるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	散歩や外出の声掛け、地域の行事の参加等、1人1人の状況や思いを大切にしながら決定している。活動内容や外食のメニューも本人の希望で行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせ、その人の希望や思いを尊重しながら、散歩、畑仕事にも参加して頂いている。特に入浴は気の合う仲間とゆっくり入って頂いている。ソファを置き自由に会話できるスペースも用意している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	年齢を重ねてもいつもきれいでいたいと願う気持ちを大切にしている。好みの洋服を自由に着たりこまめに衣類の洗濯をし、清潔を心掛けている。髪のカットもなじみの美容院へ出掛けたり、本人の希望に合わせて訪問カットもお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な会話から食べたい物をお聞きし旬の食材、国産品にこだわり希望のメニューを提供している。食事の下ごしらえや後片付け等できるお手伝いをお願いしている。グループホーム間のバイキングや食改のおやつ作りに利用者も参加している。	若干名の方が一部介助で、他の方は自力で食事が出来る状況である。元気な方が多く、食べるのも早く、完食され楽しい時間を過ごして。献立は利用者の希望も聞きながら職員が土曜、日曜に一週間分のメニューを立て、ホームの畑の野菜も使いながら季節感を考え主婦感覚の家庭料理を出している。畑の収穫、片付け、テーブル拭き等のお手伝いについても出来ることに参加していただいている。また、誕生日には好きな物をお出しし、正月、お盆、クリスマス等には季節に合わせた料理をお出ししている。更に、家族会の外出時には「回転ずし」等の外食も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事形態(きざみ、とろみ)や身体状況(血糖値、体重増加予防)に心掛け提供し、食事摂取量をチェックし記入、飲み物は多種類用意し適度な水分摂取が出来るようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日口腔体操を日課とし、食事の歯磨き実施、必要な方には介助で行っている。個々に合った磨き方の工夫、口腔状態の変化に気付くよう観察している。定期的に歯ブラシ、コップの消毒も行っている。定期的に歯科に通院している方もいる。		

グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声掛けでトイレ誘導したり、排泄表に記入し排泄状況の把握に努めている。失敗されても自尊心を傷つけないように処理している。特に日中と夜間のパットの大きさを調節して睡眠不足にならないようしている。昼間は布パンを使用し、できるだけオムツに頼らない生活をして頂いている。	全介助の方が数名で他の方は見守りを含めた一部介助という状況である。排泄表を用いパターンを把握し個々のパターンに合わせトイレにお連れしている。排便については排泄表に時間を細かく記入し一人ひとりの状況把握に努めている。また、排便促進のため牛乳、コーヒー、お茶、アルカリイオン飲料等の水分摂取に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の確認が取れば排泄表に記入している。散歩やストレッチ運動など取り入れたり、便秘予防に毎日牛乳と果物は欠かさず提供している。水分や献立にも気を付けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴日となっているが都合で入浴できない場合は他の曜日に変更し実施している。また不公平にならない様、日替わりで順番を決め、気の合う人同士と一緒に入れるよう工夫している。	自力で入浴する方が数名、一部介助の方が四分の三、全介助の方が若干名という状況である。銭湯気分が味わえる広い浴室は浴槽も大きく2~3人が入れる広さがあり、気の合う利用者同士と一緒に入浴し楽しい時間を過ごしている。基本的に週3回の入浴を行っている。拒否の方がいるがお風呂場を見せ他の利用者から誘って頂いたりして対応している。季節によって「ゆず湯」「菖蒲湯」「リンゴ湯」等も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後はなるべく休んで頂くよう声掛けしているが本人の思いに応じている。本人が望む寝具、ベッドの状態に配慮し必要に応じて冷暖房の対応もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時に名前と日付を確認して本人に渡し、内服するまで見守りしている。また薬の疑問点が生じた場合には医師に問い合わせしている。利用者に説明し、家族には薬説明書を送っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑仕事、洗濯物干し、掃除等それぞれ本人に合ったお手伝いをやってもらっている。毎日当番を決めて食事の挨拶やテーブル拭きをして頂いている。またテレビや歌、折紙など余暇を自由に楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩にはお互いに声掛けあい出掛けている。地域の催し物、四季折々の外出も計画を立てて行っている。家族との外出や外泊もして個々に楽しみを増やしている。家族会主催でバス遠足も実施した。	外出時には車イス使用の方が数名、手引きを含め自力の方が三分の二弱という状況である。日常的には玄関も開錠しており、天気の良い日には玄関前でお茶を飲みながら長椅子に腰かけ外気浴を楽しんだりホームの周りを散歩している。また、年2回、家族会の外出レクリエーションに出掛けたり、季節により「花見」「紅葉狩り」にもドライブを兼ね出掛けている。また、火・水・土曜日の午後には交代で職員と共に買い物にも出掛け外の空気に触れている。	

グループホーム泉平ファミリー

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が必要な物や希望する物があれば家族に連絡し買わせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人から贈り物や手紙が届いた時には、お礼の電話を入れ、本人の希望も聞き電話に出て頂いている。遠方の家族へ送るハガキは職員が投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室に神棚、床の間に掛け軸など飾って家庭と同様に味わって頂いている。玄関先には壁画絵を飾り、四季折々の季節感を取り入れている。毎月グループホーム新聞を掲示し、外出や催し物の写真を貼りだし楽しんで頂いている。共有スペース、居室においては掃除を徹底し、気持ちよく過ごして頂けるよう清潔を心掛けている。	ホーム全体が広々とした造りで、ゆったりとし開放感が漂っている。ユニット間の広い中庭は人工芝で綺麗に整備されベンチも設置され寛ぎのスペースとなっている。玄関を入ると笑顔一杯の「職員紹介」が掲示され来訪者にわかるようになっていく。壁には多くの行事の際の写真、利用者の作品、小学生から頂いた運動会の招待状等が賑やかに飾られ、日頃の活動の様子が窺うことができる。そのような中、ホールで体操、食事、作品制作、会話等を楽しみ、自由に一日を過ごす利用者の姿を見ることができた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつ以外にも自由にリビングで過ごされていたり、各居室にお邪魔して仲間同士でおしゃべりをして、思い思いの時間を過ごして頂いている。ソファに座り職員との会話も楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の気持ちに合わせて自宅から持ってきて頂いた馴染みの物や思い出の写真など飾り、植物を育てるなど、本人に合った工夫をして居心地良く過ごせるようにしている。	広々とした居室は整理整頓が行き届き床までピカピカで、綺麗な中で生活している。大きなクローゼットと洗面台が備え付けられ暮し易い造りとなっている。そのような中、使い慣れた家具、家族の写真、テレビ、鉢花、観葉植物等に囲まれ、思い思いの生活を送っている様子が窺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室、トイレには大きな文字でわかりやすく表示し、居室は本人にわかる目印をつける等工夫をしている。		